

「伝えること」でできること ～残された課題解決のために～

毎日放送 報道情報局 大牟田智佐子
(兵庫県立大学 客員研究員)



自己紹介

年代	
1990	毎日放送 (TBS系列)入社
1993～1998	テレビ報道 記者(94～“地震記者”) 災害報道専門
1998～2010	ラジオ報道 記者 災害番組「ネットワーク1・17」プロデューサー
2011～	テレビ報道(報道ライブラリー)
2019～2022	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 博士後期課程 → 学術博士



1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき



神戸市長田区上空



淡路島・野島断層



阪神高速道路(いずれも1995.1.17)

1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

情報がない **≠** 被害がない

▶▶▶ **発信できないほど被害が甚大！**

1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

情報がない **≠** 被害がない

▶▶▶ **発信できないほど被害が甚大！**



災害情報のドーナツ化現象(小田, 2004)

1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

局部拡大症候群(小田, 2004)



阪神高速道路倒壊



大規模避難所

(兵庫県&大阪府=全1239避難所)



1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

局部拡大症候群(小田, 2004)

「集中・反復・大量報道」▶誤った災害像



阪神高速道路倒壊



大規模避難所

(兵庫県&大阪府=全1239避難所)



1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

「社会部的発想」の切り替え

▶ 被災者の少し先を見据えた報道



1995阪神・淡路大震災における マスメディアの気づき

「社会部的発想」の切り替え

- ▶ 被災者の少し先を見据えた報道

「災害報道」の概念切り替え

- ▶ 長期の復旧・復興報道(手探りで)



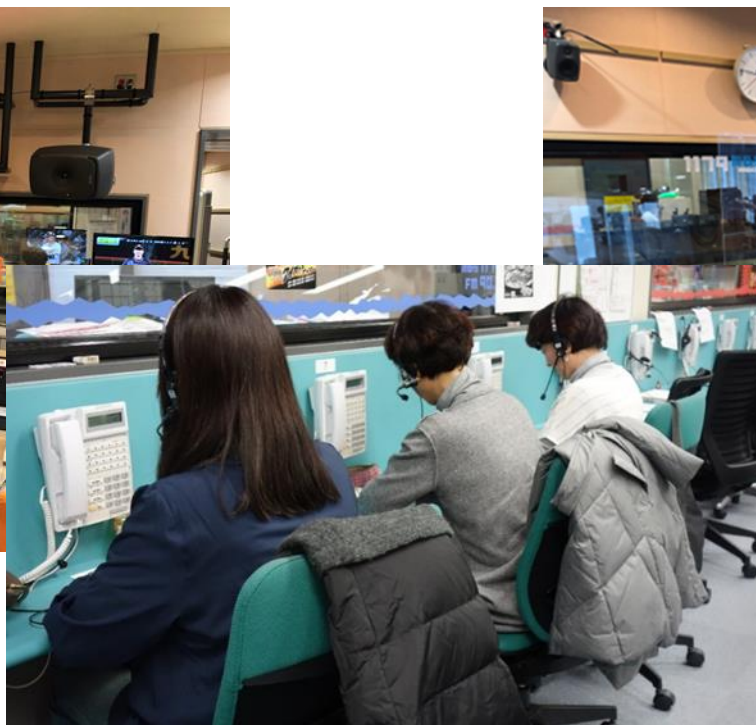
災害放送における役割分担

テレビ ▶ 被害の全体像を全国に



災害放送における役割分担

ラジオ ▶ 被災者のための情報を被災地の内に



災害放送における役割分担

ラジオ ▶ 避難生活から再建まで寄り添う
(絵にならなくても)



「脇ノ浜仮設住宅」



「六甲アイランド仮設住宅」 神戸市オープンデータ
阪神・淡路大震災「1.17の記録」より



国難災害におけるラジオへの期待

停電にも強い・持ち歩き可能
津波避難の呼びかけ
海岸にいる釣り人などにも



国難災害におけるラジオへの期待

本当のラジオの機能＝応急対応終了後から

掲示板 ▶ 被災者のつぶやき・

リスナー同士の励ましを媒介

伴走者 ▶ 復興の長い道のりを支え続ける

▶ 「共感放送」＝ローカルメディアの役割



提言へのインプット

radiko radikoで今すぐ聴く！

ネットワーク1・17

毎週日曜日 あさ5時30分～
「被災者に向けた、被災者のための、被災者の支えとなる番組」。
こんなコンセプトで、阪神・淡路大震災から3か月がたった1995年4月15日にスタート。被災者に寄り添い、復興の課題や現実を見つめてきました。
「震災の記憶を語り継ぎ、次なる災害への備えを呼びかける」。
今ではこれが番組の2本の柱です。

キャスター：西村愛
大阪市出身。二児の母。高校生のときに、初めて神戸の仮設住宅を訪問し、人の話を聞いて想いを伝えることの大切さを実感する。ラジオDJとなった後、東日本大震災の被災地でボランティア活動も経験。大阪で、震災復興を応援する音楽イベント「ハッピーラッシュヨッホ」を毎年企画するなど、子育てを楽しみながら、被災地とつながる活動を続けている。

過去の放送はポッドキャストとYouTubeでお聴きいただけます。

Apple Podcastsで聴く
Listen on Google Podcasts

放送内容の書き起こしはコチラ>>

Kazuo Senoo
Yuki Uozumi
Network 1・17

阪神・淡路大震災27年

被災者の支えの一端 ▶ メディア

「ネットワーク1・17」

東日本大震災「ネットワーク3・11」も

復旧・復興フェーズのあり方▶次の社会

・被災地外▶▶▶災害への興味薄れ風化

・被災者の課題▶▶▶個別・具体化

「小さな物語」

▶コミュニティFM・臨災局・民放ラジオ